

令和 3 年度薬学教育協議会・分析化学系教科担当教員会議 議事録

日時：令和 4 年 3 月 27 日（月）12:30 ～ 13:30

場所：Web 会議システム Zoom による開催

出席者：全国大学薬学部において分析化学教育に携わる教員 82 名

配布資料

1. アンケート結果報告資料
2. 各大学のアンケート調査の集計結果
3. 薬学教育モデルコアカリキュラム（素案）

会議内容

1. 開会の辞

村田委員長（名城大学）より、開会の挨拶があった。

2. 教員会議アンケート集計結果報告について

石濱泰先生（京都大学 教授）より、2019 年度に実施されたアンケートに関する趣旨が説明された。

鈴木茂生先生（近畿大学 教授）より、アンケート集計結果をもとに、各大学で実施されている分析化学の講義と実習内容の説明があり、薬学教育における「分析化学の平準化と教育スキルの向上」の必要性が提言された。

3. 分析化学分野における新コアカリについて

- 鈴木茂生先生から、薬学教育モデルコアカリ改訂に向けた基本方針の説明があり、新コアカリ改訂に向けたスケジュールが示された。また、新コアカリ（素案）に関して、分析化学担当教員会議の意見集約の必要性が示された。時期に関しては、令和 4 年度秋頃予定の新コアカリ（案）に対するパブコメ実施前に行う必要性が示された。
- 鈴木茂生先生から、現行コアカリと新コアカリの比較説明があった。

4. アンケート集計結果報告及び新コアカリに関する質疑について

江坂幸宏先生（岐阜薬科大学 教授）が司会として質疑応答を行った。

- 質問 1 容量分析などに関する教育方法の工夫
学生の計算力の低下が指摘され、意見交換が行われた。
- 質問 2 新コアカリで増加する臨床に関連する分析化学教育にどのように対応するか
新コアカリ（素案）に例示された新たな臨床関連項目の多さ及び項目（人工透析）を指摘する意見があった。

新コアカリ（素案）において減少した創薬関連項目について指摘する意見があった。

新コアカリ（素案）では、コアカリの例示を超えた自由度の向上を目指しているとの説明があった。

新コアカリ（素案）について、疑問点の集約が必要であるとの意見があった。

5. 分析化学系教科担当教員会議の今後の運営方法について

村田委員長より、年度毎の分析化学担当教員会議の引き継ぎを円滑にするために、委員長は従来通り薬学会開催幹事校の教員会議メンバーから選出し、新たな案として、次期薬学会幹事校の教員会議メンバ

一から副委員長を選出することが提案され、副委員長の役職の説明があり、副委員長の選出が了承された。その結果、令和4年度は、委員長・小川美香子先生（北海道大学 教授）、副委員長・穂山浩先生（星薬科大学 教授）に決定した。

6. 次年度分析化学系教科担当教員会議委員長及び副委員長の紹介について

次期委員長・小川美香子先生及び副委員長・穂山浩先生より自己紹介があった。

7. 学会及び研究会の開催案内

8件の学会及び研究会のお知らせがあった。

8. 閉会の辞

村田委員長より閉会が宣言された。

以上、議事の経過及び結果を明確にするため、本議事録を作成する。

令和4年3月30日

委員長 名城大学 村田富保